

木質利用の未来を考えたとき、エネルギー活用は大事なポイントになる。日本でも製紙や石油、そして大手の産廃処理事業者もバイオマス発電に着手するようになった。

製紙会社は原料となる木を扱うことから、木質発電を視野に入れてきた。処理業者も木チップ生産は処理と同時なので、自らが事業主体となることに不思議さはない。同じ理由から木材加工の事業者が発電をやるのは当然ともいえる。FIT制度の導入

電気と熱と 未来の農地活用

「木」とのつながり
があまりない事業者
なのになぜ。燃料原
料を見るとPKS、
木質ペレット年間23
万トというように輸
入材が圧倒的だ。

今までのように石
油を輸入しているだ
けではエネルギー入
手ができないことを
肌で感じている様子
だ。さまざまな国の
輸入ルートやノウハ
ウがあることを生か
してのバイオマス発
電の参入ともいえる。
ここにきて木質の
発電事業者から「電
気だけではだめだ」
との意見が浮上して
きた。鍵になるのは
農地利用だという。
ハウス栽培などに熱
は使う。次のトレン
ドになる予感があ
る。